

この号の内容

- 1 大崎市民病院への生花持ち込みについて
- 2 昨年度の針刺し粘膜曝露報告

大崎市民病院への生花持ち込みについて。

大崎市民病院では、院内への生花持ち込みは控えて頂いています。花の香りは疼痛緩和に有効であると報告されている一方で、生花より細菌類の検出報告があるため、一般的に生花由来の細菌感染があると考えられています。しかし実際には一般患者での生花由来感染症は報告されておらず、移植患者や重症エイズ患者等の免疫不全患者で感染報告があるのみです。これらを根拠に日本感染症学会は、公式見解として病院内への生花持ちこみは制限不要であると発表しています。（免疫不全患者のいる病棟は除く）しかし同学会は、生花持ち込みにあたり下に記載した5つの注意点の遵守を推奨しています。

- ①花や植物は患者に直接接しないスタッフが取り扱う。
- ②このような対応が困難ならば花を取り扱うスタッフは手袋を装着する。
- ③植物を取り扱った後は手を洗う。
- ④花瓶の水は隔日に交換して、患者周辺の環境から離れた流し台に捨てる。
- ⑤使用後の花瓶は洗浄する。



大崎市民病院では、担癌患者や透析患者等の免疫低下している患者が非常に多いことや、上記の5つの注意点の遵守の問題より院内への生花持ち込みは控えて頂いています。仮に生花の持ち込みがあった場合は下記の対応をお願いします。

- ・持ち込みがあった場合は速やかに家人に回収して頂く。
- ・家人の来院が無い場合は本人に説明し、合意後に部署で処分する。

生花持ちこみの件で困り事やトラブルになった際には、総務課にご一報をください。またドライフラワーも生花と同様の対応をお願いします。

Topics

研修会などのお知らせ

第9回J感染ネットワークフォーラム

会期

2017年8月26日(土)

9:20~16:50

会場

仙台国際センター

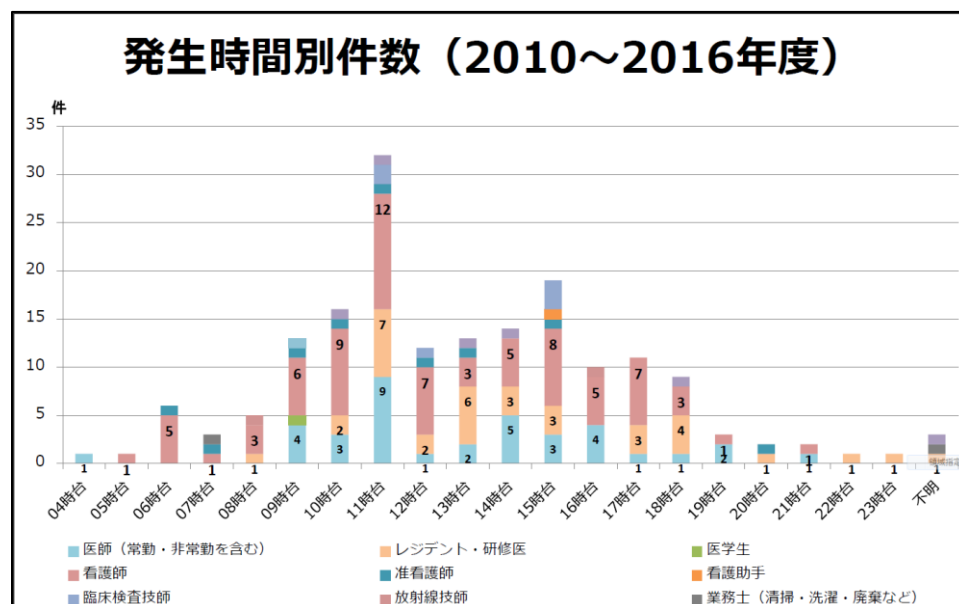
参加費

3000円

昨年度の針刺し粘膜曝露報告

昨年度の針刺し粘膜曝露（以後、針刺し）発生件数は28件であり、一昨年度の42件と比較して大幅な減少が確認されました。看護師の針刺し件数は、一昨年度は18件であったのに対し、昨年度は7件と大幅な減少が認められました。これは安全装置付き器具や、器具の取り扱い手技が普及したからと考えられます。一方で、昨年度の医師、研修医の針刺しは17件と一昨年23件と同程度の発生件数でした。医師は特に手術室での針刺し報告が多く、これは術中に使用する縫合針には安全装置が付けられないことに起因していると考えられます。また手術室以外の針刺しでは、リキャップ時の針刺しが多いです。一方で当院での2010~2016年度の7年間の針刺しが発生した時間帯に注目すると11時台に非常に多いことが分かりました。上記の傾向を踏まえて、職種を問わず安全に業務従事してください。

針刺し件数	H27年度	H28年度
医師	23件	17件
看護師	18件	7件



万が一、針刺しを起こした場合はポケットマニュアルに簡易的なフローチャートが記載されていますので、そちらを参照してください。また詳細に知りたい場合は電子カルテ端末より閲覧できる院内感染対策マニュアルを参照してください。

針刺しを起こしてしまった場合、報告せずに黙っていることが感染対策上、最も危険です。針刺しを起こした事で、病院管理職よりその責を問われることはありませんので、正直に報告をお願いします。